

欧州訪問記

ドイツ チェコスロバキヤ オーストリア

浅川寿岡碁同好会副会長 田中 利孝

この年度末に傘寿を迎える事になり、そろそろ身辺整理をして、気持ちの上でも身軽になりたいと思うようになった。そこで元気な頃の旅の思い出を纏めておこうと考えたが、いざ始めてみると、そう簡単には進まない。何事も気が向いた時にやる主義で、書き上げたのがこの小編である。人間がむしゃらに歩ける体力と、何を食べても旨いと感じる胃袋を持っていた頃が懐かしい。

しかし旅の良さ、楽しさの賞味期限は限られている。5時間以上のフライトはエコノミー症候群の恐れがある。体力の低下は目を覆わんばかりで、あせらず、無理せず、おおように、身体をいたわって人生を送ろうと考えるこの頃である。

オーストリア

1993年8月18日、成田発午前10時20分のオーストリア航空で、モスクワ経由ウィーンに着き、スイス航空でチューリッヒに到着したのは、現地時間午後7時45分であった。所要時間16時間程で、時差は7時間である。スイスには5日間滞在し、23日にドイツのミュンヘンに入国した。最初に見たのはニンフエンブルグ宮殿の大庭園で、ベルサイユ宮殿に匹敵するかと思わせるばかりであった。翌日聖母教会、新市庁舎、レジデンス庭園、日本茶室等を見て、午後アルテピナコテークとノイエピナコテークを見学、夜はフュッセンに宿泊した。

ロマンチック街道

ロマンチック街道フュッセンからバスでノイシュバンシュタイン城へ、バイエルン公国のルードヴィヒⅡ世が17年の歳月をかけて築いたもので、マリエン橋から眺めた美しさも素晴らしいが、城内の部屋部屋の趣向も楽しかった。ついで父王の建てたホーエンシュバンガウ城を見る。やや小振りの簡素な趣が、それなりによかった。ここから見るノイシュバンシュタイン城はメルヘンチックに美しくそびえていた。

ここからロマンチック街道を北上する。最初の町はアウグスブルグである。夕刻に到着し、見学は翌日にまわしてホテルで休む。26日朝フツガー屋敷を見る。低所得者用として民間の手で建てられた住宅群で、当時も今も廉価な家賃で居住出来るので有名であ

る。バスはネルトリンゲンに入る。今から 1500 万年前いん石が落ちて出来た盆地の中にあり、古い城壁に囲まれた中世そのままの都市である。次のデインケルスビュールも中世そのままの自由都市の面影をとどめた町である。

ローテンブルグでは犯罪博物館なるものを見た。絞首台を始めとする拷問道具が数多く展示されているが、鉄の処女という刑具は全くむごたらしいものであった。これが実際に使用されていたとは、中世社会の陰惨さが身にしみる思いであった。ゲルツブルグはこの街道の北の起点である。マイン河にかかるアルテマイン橋を渡ってマリエンベルグ要塞を見て、レジデント大聖堂等を巡りフランクフルトに到着した。ロマンチック街道ぞいの聖堂には、リーメンシュナイダーの祭壇彫刻が各所があり、その精緻な生き生きとした姿に感嘆した。

フランクフルトでは夜食を居酒屋でとる。居酒屋といっても数百人規模の人たちが部屋から部屋にあふれ、ビールのジョッキを空けているさまに驚嘆した。家庭的な晚餐の雰囲気ですぐ溶け込めてジョッキを傾けたが、見ず知らずの人たちが肩を組んで歌いながらしゃべりながら飲む姿に心が打たれた。これがこの地方の伝統であり、客扱いの暖かさである。

ライン河下り

28日マインツに向けて出立する。マインツからは父なるラインの河下りが始まる。ライン河は全長 1,320K の国際河川で、兩岸の間をたっぷりとした水がゆったりと流れている。流れに沿って岩山とブドウ畑、所々に村落があり、そして古城がある。その数およそ 30 余り、ねこ城とかねずみ城とか、そのネーミングも楽しい。昔は外敵の侵入を防ぎながら、それぞれ船の通行税を徴収していた訳である。かの有名なローレライは妖精の岩の意で、ハイネの詩に曲がつけられて歌われているが、河の右岸にある岩山が見えて来ると船上のスピーカーから高らかに歌が流され、その眺めは河下りの白眉となっている。やや黒ずんで見える美しくもまがまがしい岩山といえよう。ゴブレンツで船を下り、列車でケルンを目指す。

ケルン大聖堂

ゴブレンツから 50 分程で、ケルンに到着する。駅前にあるケルンの大聖堂は、想像以上に素晴らしい。真下から見上げると、異常なまでの巨大さに圧倒されてしまう。高さは 157m、奥行き 14.4m、幅 86m、1248 年着工し 1880 年に漸く完成した。この間 632 年、民衆の奉仕の結晶が、かく形をなしたものといえよう。

ベルリン

ケルンからベルリンまで列車で8時間程、29日の午前ポツダムにつき、プロイセンのフリードリッヒ大王の新宮殿と庭園を見学した。特に貝殻をちりばめた美しい広間は、この目にくっきりと焼付いている。次いでサンスーシイ宮殿(無憂宮)は階段式のぶどう温室の上に立つロココ式の宮殿で、手前の噴水から階段を上って、宮殿が見える所から頂上までの風情が殊に美しい。

国立ベルガモン博物館

いよいよ「ゼウスの大祭壇」に直面する。その迫力たるや体がしびれるばかりで、これを見たことが、1996年トルコ周遊に出発させた一つの理由となっている。古代ギリシャのベルガモンは現在のトルコ、ベルガマでドイツの発掘隊がゼウスの大祭壇を発掘し、ベルリンに移送した。これがベルガモン博物館の名の起こりである。この大祭壇は正面36.44m、側面34.20m、高さ9.66mに及ぶ巨大な記念建造物で、その基壇の周壁を装飾する浮彫はヘレニズム時代の代表作であり、ギリシャ彫刻の粋を集めた作品であるといわれる。

8月30日シャーロットテンブルグ宮殿の日本、中国の陶磁器で飾られた部屋等の豪華な美しさ后感嘆して広場にでて、戦勝記念塔の下まで歩き、金色の勝利の女神がすっきり立っているのをながめる。昼下がりブランデンブルグ門へ、上にたたずむ四頭立ての馬車は、ナポレオンかパリに持ち帰ったが、1814年に返還されたという。ベルリンの壁の時代は、この門の前に壁が築かれていて、通行出来なかった。今は取払われてすっきりした姿である。通行する人も見えない。

チェコスロバキヤ プラハ

12時15分ドレスデン駅の車中で入国チェック、プラハ着15時。プラハ市内を流れるブルタブ河にかかるカレル橋は美しい。全長520m、幅10m、両側の欄干に並ぶ聖人像が人目をひく。ドイツのゲルツブルグのマイン河にかかるアルテマイン橋も、全く同じように聖人像が飾られていた。人の祈る心が変わりがないことの証左であろう。

オーストリア ウイーン

9月1日ミュンヘンへ再入国し、ザルツブルグへ8時50分着、レジデンス庭園を始め、市内観光を済ませてウィーンへ3時間で到着した。

2日シェンブルグ宮殿をたっぷり見学、その美しさに心はすっかり酔わされてしまった。聖シュテハン大寺院は荘厳さに満ちた聖堂である。しかも暖か味のある寺院である。午後自然史博物館(特別展は始祖鳥をふくむ恐竜展)を見学し、次に美術史美術館を見た。ラファエロの草原の聖母、ブリューゲルのバベルの塔、雪中の狩人等々、名画のオンパレードである。4日午後プラター公園で、「第三の男」で有名な大観覧車に乗ってウィーン市内を眺望した。夜は市庁舎の地下食堂で、ウィーンの楽曲を生演奏で聞きながら、食事を取ったのも思い出の一齣となった。

5日ウィーン空港11時25分発、モスクワ13時45分、同発15時20分、成田着6日12時35分(5時35分)であった。自宅に無事ついたのは午前11時過ぎでした。

(碁楽連だより 12月号 第232号 2010年12月1日)